

ブンニャティティ

ジャンマ・シッダの顕現をたたえる

アーシャ・リチャーズによる解説

1961 年8月8日、バガヴァーン・ニッティヤーナンダ——偉大なシッダ、アヴァドゥータ——は地上の次元を離れ、至高なる意識の無限の至福に融合しました。この日、8月8日は、グレゴリオ暦でバガヴァーン・ニッティヤーナンダの太陽暦のブンニャティティです。

バガヴァーン・ニッティヤーナンダはバーバ・ムクターナンダのグルでした。バーバはバガヴァーン・ニッティヤーナンダを彼の最愛のグルと呼び、バーバが 1947 年 8 月 15 日に神聖な伝授、シャクティパート・ディークシャーを受け取ったのは、バガヴァーン・ニッティヤーナンダからでした。

バーバ・ムクターナンダは、バガヴァーン・ニッティヤーナンダのブンニャティティの時にその場において、目撃したことを、著書『Bhagawan Nityananda of Ganeshpuri ガネーシュプリーのバガヴァーン・ニッティヤーナンダ』の中で、非常に感動的に描写しています。

インドでは、聖なる人がこの世を去った記念の日をブンニャティティ、「徳(ブンニャ)」の「日(ティティ)」と呼びます。バガヴァーン・ニッティヤーナンダ(親しみを込めてバデ・バーバと呼ばれています)のような偉大な存在がこの世を離れる時、彼らのシャクティと、彼らが生涯の間に成し遂げた高貴な行為から蓄積された数え切れない徳の果実は、信奉者たちのために地上に残ります。信奉者たちにとって、そのような存在の出立を記念する日は、思い出し、感謝

する時です。彼らは祈りをささげ、プージャーやその他伝統の儀式に参加し、神やグル、そしてプンニャティティが祝われている存在をたたえてチャンティングします。プンニャティティは聖なるお祝いの日なのです。

サンスクリット語とヒンディー語で、プンニャティティのプンニャは、精神の探究者にとって大変重要な意味を持っています。ここでは、この語をさらに探究していきます。

その多様で微妙な含意のうち、プンニャは、吉兆なこと、幸先の良いこと、公正なこと、感じが良いこと、良いこと、正しいこと、高潔なこと、価値あること、純粋なこと、信心深いこと、神聖なこと、などといった意味があります。¹高潔な行為、プンニャ・カルマを行うことで、人は徳を積みます。この徳は、ダルマの人生の目に見えない富です。そのような徳は、人の日常生活を高潔で精神的なもの——人を神へと導く人生——へと変容させます。

プンニャ・カルマを通して積まれた徳は、この人生だけでなく、次の人生にも利益をもたらします。そのような徳の高い行為をできる立場にあることさえ、それ自体が祝福とされます。それは、その人が以前の人生において美德の模範を示し、他者の幸福を増進させる行為をしたことを立証しているのです。

プンニャという言葉が持つ多くの意味のうち、私が特に引かれる定義は、純粋であるという意味の、シュッダターです。インドでヒンズー教の家庭に育った私は、純粋であるという概念が重要であることを学びました。特別な日に、家族の年長者によってその家の神にささげるプージャーが自宅で行われたことを覚えています。崇拝の儀式を始める前に、プージャーを行う年長者は崇拝のために祭壇に進むのに先立ち、沐浴(もくよく)をし、清潔な朱色の絹のドーティーを着ます。子どもだった私たちは、常に気をつけてプージャーの準備を整えている人に絶対に触れないように、絶えず注意されました。もし、不注意に触れてしまったら、年長者はその過

程を再びやり直さなければならなかったのです。もう一度沐浴をし、新たな服を着用しなければなりません。祈りの前に身体を清める、あるいは外側を清めることは、内側を清めることを象徴するのだと私が理解し始めたのは、もっと成長した後になってのことでした。

『シュリー・バガヴァッド・ギーター』で、クリシュナ神は言います。

येषां त्वन्तगतं पापं जनानां पुण्यकर्मणाम्।
ते द्वन्द्वमोहनिर्मुक्ता भजन्ते मां दृढव्रताः ॥७.२८॥

*yeṣāṁ tv antagataṁ pāpaṁ janānāṁ puṇyakarmaṇām
te dvandvamohanirmuktā bhajante mām dṛḍhavrataḥ*

しかし、自らの中の悪が尽きた人々、
行為が純粋である人々、
彼らは、相反するものの惑わす力から解放され、
強固な誓いを持って私を崇拝する。²

『シュリー・バガヴァッド・ギーター』は、解放を得た存在——神に融合している存在——がなす行為は純粋だと教えています。そのような存在は、世界を神聖なる者の顕現として見ます。彼らは自分自身や人々、そして万物の中に存在する神聖なる者をたたえ、そしてそのようにして絶えず神を崇拝しています。その結果として、彼らの行為は、相反するもの同士——高い・低い、あなた・私、良い・悪い、快・苦痛、望ましい・望ましくないといった概念——に左右されることはありません。

一体性から分離しているという誤った感覚や相反するものの影響に駆られて行動するので、多く人はエゴに方向付けられた欲望を守り、助長するために努力します。これは、パーパ・カルマ、不純な行為が優位になり、『ギーター』によって描き出される「悪」を作り出す時です。パ

ーパ・カルマは、利己心、強欲、怒り、嫉妬、妄想といったネガティブな傾向によって活気づけられる行為です。それらは私たちのマインドを惑わし、どう猛に支配することができます。それらは私たちの真の自己の生来の善良さや純粋さを体験することから、私たちを引き離します。

この状況の救済策となるのは高潔な行為、すなわちプンニャ・カルマを実践することです。プンニャ・カルマを構成する有益な行為は、私たち自身の神聖さと、世界の中に存在する神聖さへの気づきを強化しようとする私たちを支えます。困っている人を助け、真実を話す勇気を持ち、誠実さを実践し、困難な状況でも平静を保ち、生きとし生けるものに対して親切で礼儀正しくあることなどはすべて、いつでもどこでも実践できるプンニャ・カルマの例です。そのような行為をすることは、寛大さ、平静さ、強さ、勇気、思いやり、尊敬、愛などの、高貴な美德を培うことを助けます。やがて、私たちはこれらポジティブな資質の宝庫を築き、それらの資質は、変動する人生のかじ取りをする際の忠実な友となり、私たちが目標に集中し続けることを支えるのです。

プンニャ・カルマを通して、私たちはネガティブな精神的印象の汚れを洗い流し、執着の鎖を根気強く断ち切り、世界は私たち自身の大いなる自己とは違うと誤解させる二元性の概念を消し去ります。川の水の絶え間ない流れが川底の石の汚れを取り除くのと同じように、善良で高潔な行為——徳の行為——を意識的かつ繰り返し実践することによって、私たちはマインドの不純さを浄化します。プンニャ・カルマは、マインドを浄化の旅において前進させます。そうした純粋なマインドは、想像をはるかに超えた無限の空のようになるのです。

偉大な存在のプンニャティティに際し、私たちは彼らをたたえ、彼らの驚くべきプンニャに感謝します。彼らの人生と行為が、いかにこの言葉、プンニャが持つすべての美しい含意に広がっているかを思い出します。彼らがこの地球上で肉体という形を取ってくれたこと、探究者の人生

とサーダナーを導いてくれること、そして彼らのシャクティと計り知れないプンニャ・カルマから受け取り続ける恩恵に対して、私たちは感謝を表すのです。

私たちがこれを行うには、私たちがプンニャティティを祝う偉大な存在を思い出すことを実践するには、多くの方法があります。しかしこの日に、例えば、「シュブ・プンニャティティ!」と言って、互いにあいさつしたり願ったりすることは、インドの習慣では絶対にありません。私になぜこのことを話すかという、シッダ・ヨーガの道では、私たちが「シュブ」という言葉を使う機会が何度もあるからです(例えば、「シュブ・グループールニマー」など)。

もう少し詳しく説明します。一つには、「シュブ」と「プンニャ」は同じ意味を持ち、縁起が良いことを伝えており、両方言うことは冗長です。さらに、誰かに「シュブ・プンニャティティ」と願うこと、あるいは「シュブ・バガヴァーン・ニッティヤーナンダのプンニャティティ」と願うことは、相手に縁起良く亡くなることを願うようなものです。それは生きている人に望むようなことではありません。

バガヴァーン・ニッティヤーナンダのプンニャティティの観点からプンニャを熟考することは、シッダ・ヨーギである私たちにとって非常に意味があります。バデ・バーバはジャンマ・シッダ、すなわち生まれながらにして完全に自己実現を遂げている存在でした。彼は生まれた時から既に、エゴの利己性と二元性の認識を超越していました。彼は、彼の名前に表されている永遠の至福、ニッティヤーナンダの中に住み、そしてこの惑星での彼の存在そのものが寛容の表れでした。

バデ・バーバがなしたすべての行為、彼が話したすべての言葉、面前に来た人々に彼が注いだすべての視線は、慈愛、美德、吉兆——プンニャ——で満ちていました。私たちはこれを、バデ・バーバがいかに何千もの人々の人生に触れたか、いかに彼の所に来た多くの人々の苦しみを和らげたか、そしていかに神を知りたいと切望した人々のサーダナーを導いたかで知ることができます。今日でも、インドの至る所——質素な家庭や裕福な家庭、小さな喫茶店や繁

栄している企業、都市や町や小さな村——で、人々の家の祭壇の上に、バデ・バーバの写真が置かれているのを目にします。

この地上でのバデ・バーバの存在は、彼のダルシャンを受け、彼を崇拝し、彼の教えを覚えて心に受け止めた人々に無数の祝福をもたらしました——そして彼の恩恵は、世界中の無数の魂に祝福をもたらし続けています。これこそが、彼のプンニャティティという機会に、私たちがたたえ、深い感謝を表すものなのです。



© 2022 SYDA Foundation. 著作権所有。

¹ Monier Monier-Williams, *A Sanskrit-English Dictionary* (Delhi, India: Motilal Banarsidass, 1995), p. 632.

² *Bhagavad Gita*, 7.28; ed. Swami Kripananda, *Jnaneshwar's Gita: A Rendering of the Jnaneshwari* (S. Fallsburg, NY: SYDA Foundation, 1999), p. 96.